

3年三者面談の目的～最後の勝負に勝つために～

①本人、保護者、担任で「共有」

この「共有」が最後の勝負に向けて、「最短の」かつ「他のライバルより鋭い」伸びを見せます。そのための話し合いです。

② α 、 β 、 γ プランの確認

冷静に考えられるこの時期に、いくつかのパターンを想定しておくことが何より重要です。共通テストがうまくいった場合[α]だけでなく、そこまで取れなかった場合[β]、うまくいかなかった場合[γ]、私大も含めてどう出願するかイメージしておく、共通テスト後の切り替えがすぐできて最後の勝負に向かえます。

③冷静に、そして熱い気持ちで

ここまで来たのだから、受験の最後まで全力で走り抜くのが当たり前、というか前提として、ここで必要なのは2つの「気持ち」。

まず「冷静に」現在の自分の学力を把握し、何をどれだけ積み重ねれば届くのかを担任のアドバイスと一緒に理解する。ここから目を背けてしまうと、自分の立ち位置をわからぬまま勉強するから結果効率が悪くなります。第1志望まで学力が遠い場合、まず β のレベルにどう届かせるか考えればいい。それは第1志望にも“確実に”近づいていることになります。

次に、「熱い気持ち」が大事。冷静に自分の学力を把握し、冷静に残りの期間どう攻めるかを考える時、腹をくくって「やってやる！」という勢いが絶対不可欠。「受かるか不安」「どうせ受からない」という気持ちで守りに入ると、爆発的なパンチ（学力の爆上げ、逆転合格）は繰り出せない。 γ まで冷静に考えた後、「そうか、現時点の力だと受かる大学はここか…→行きたくないな、なら絶対に学力伸ばしてやる!」、逆に押さえがわかり「これで安心、モヤモヤが晴れた!」、改めて「絶対に第1志望に受かってやる!」、こうなれば力強いラストスパートとなり勝つ確率が上がります。

④どこで押さえるか[国公立後期or私大or浪人]

浪人アリの場合、来年のことを考えれば後期までしっかり受験。

⑤今年度の入試動向

11月の各予備校の動向分析によると、旧帝大、横国・千葉・筑波等のブロック大は昨年度並の難易度になります。基本、恐れず勝負に行けるステージ、状況となっています。

地方国公立大学は後期も含め志願者が減っています。前女の順位で200番台でも最後（後期）まで粘ると例年以上にチャンスがある動向分析となっています。特に理系の国公立は、「(理)工学部」に目を向けるとかなり可能性があります。

⑥[戦略]「私大の共通テスト利用」から積極的に

ここで難関私大の合格を取れば、国公立2次を強気に出せるようになります。私大専願者も同様です。押さえの大学に合格するだけでも、精神的に落ち着いて共通テスト後の頑張りにつながります。この2つは前女生にとって重要なステップで、その後の戦い方、そして結果にも良い影響を与えています。残り期間の共通テスト演習で得点率の「メド」がたてば積極的に。

その他の戦略や考え方はMJ進路通信No.27を主に、No.26, 29を参照。

⑦調査書の申請

※12月出願の調査書は随時受付中。早めに申請を

三者面談後、終業式までに出席する分の調査書を申請してください。私大は大学によって受験する分だけ必要な場合と、1通出せば良い場合があります。各大学の入試要項を確認してください。

12/23(金)終業式までに申請、年明けの1/6(金)始業式に生徒に渡す段取りになります。一番早くても1/6の手渡しとなります。

もちろん12/23以降の申請も受け付けます。その場合、1/6以降の手渡しとなります。

進路情報

◎国公立2次出願期間 **1/23(月)～2/3(金)**

冊子「みちしるべ」、「MJ進路通信No.27」では1/23～2/1となっていますが、途中で変更になり2/3まで延長になりました。確認してください。